

平成23年9月27日

平成23年度「基礎・基本」定着状況調査結果報告

広島市立中広中学校

はじめに

この調査は、『学習指導要領に示されている目標及び内容に基づき、特に、『読み・書き・計算』などの基礎的な内容とともに、思考力・判断力・表現力などの定着状況や、生徒の生活や学習に対する意識や実態及び各学校における教科指導等の実態を把握することをとおして、各学校が自校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善・充実を図ることを趣旨としている。』という目的で中学校2年生を対象に平成14年度から実施されているものです。

調査の内容は、生活や学習全般と国語・数学・英語の3教科となっています。

生活・学習の調査結果について(別紙)

各質問に対し、前向きな回答をした生徒の割合のパーセンテージを、中広中学校・広島県・広島市について示しています。現在の中学生一般の状況は広島県の結果から見ることができ、それと比較することで本校の特徴も明らかにすることができます。特に県・市と本校との間に有為差が見られるものや本校生徒の顕著な傾向には太枠をしています。

■「生活に関する調査」について

- ・ふだん(月曜日～金曜日)、同じくらの時間に寝ている、起きていると回答した割合が高い。
- ・新聞やテレビのニュースをよく見ている。社会の出来事や事件などに関心がある割合が高い。
- ・読書が好きである割合は高くないが、読んだ本の内容について、友達や家族と話をする割合が高い。
- ・将来の夢や目標が叶うと思う割合が広島県・広島市に比べて高く、自己実現力・自己効力感が低いわけではないが、他の項目が低く、物事に対する積極的な取組が出来にくいところがある。

■「学習に関する調査」について

- ・学校へ行くのが楽しいという項目に関して、広島県・広島市に比べて割合が高い。
- ・家庭学習をしていない生徒の割合が多い。(予習・復習・ふだんや休日の学習時間)
- ・学習習慣が定着していない。学習動機や学習意欲が弱く、他律的であり、目標を持つことや活動に対する積極性が弱い傾向がある。
- ・思考力・判断力・表現力においても若干弱いところが見受けられる。自分で考えて答えを出そうとする意識が低く、成果が上がりにくいところがある。

■調査結果から

「勉強はしなくてはいけないが、自ら積極的に学習する意欲が低い。自分の目標を持ち、ねばり強く深く考えたりすることが苦手である。」といった生徒の姿が見えてきます。(全国的な傾向でもある…)

日々の生活を大事にし、きまりを守り、様々な活動に積極的に取り組むことが学力を伸ばす事につながることから、有意義な中学校生活が送れるよう、以下に重点を置いて、指導していこうと考えています。

- ①「わかる授業づくり」……「本時の目標」を提示し、目的意識をもって、授業を行う。パソコンなどの視聴覚機器を使ったICT教育を進めていく。教え合いや小グループを取り入れた授業展開を工夫する。
- ②「家庭学習の定着」……週末課題などを出し、家で何をどのようにするのか具体的な指導をする。家庭学習時間を増加させ、内容が形式的にならないように指導していきたい。
- ③「学習ノート」を利用した家庭学習の習慣化…「学習ノート」を使って、学力の定着を図り、家庭学習を多くしていくように取り組む。
- ④「学習意欲の増加」……さらに、将来を見据え、学習の目的を持たせるよう、保護者の方にも協力をあおぎ、指導していきたい。
- ⑤「基礎学力の充実」…文化祭後、毎日のSHRを使って、基礎学力をつける取組を開始する。
- ⑥「定期テストへの取組」…朝の学習会や個人指導を行い、生徒の学習を支援していく。
- ⑦「生活の乱れは、学力に影響する」の考えの下、生徒との人間関係を深め、「説得・納得・信頼」を心がけ、きまりを守り、毎日の授業を大事にするように指導していく。